

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

介護保険制度が2000年に施行されて21年が経過しました。戦後の1960年代に5・7%だった日本の高齢化率は、今年の敬老の日総務省統計局が発表した資料によると、29・1%となりました。健康で寿命が延びていくことは私たちの願いであり、「人生百年時代」も現実になろうとしています。数十年前を思い出すと、親の面倒を子が自宅で最後まで看続けることが常識という社会通念と、限られた老人福祉サービスの下で各家庭内で対応せざるを得ない現実と、関係された皆さんには大変なご苦労があっ



諏訪市長 かねこ 金子 ゆかり

サービスの中で、市町村がサービスの種類や提供機関を決める「措置」から、利用者が自らサービスの種類や事業者を選択し、ケアプランをもとに医療と福祉の総合的なサービス利用が可能な「契約」へと変わり、現在では、訪問、通所などの在宅サービス、施設・居住系サービスそれぞれの分野に実に多種多様なサービスを、たくさんの方が担っています。その数は、諏訪圏域内で399事業所、諏訪市内でも97か所となり、介護に係る人材はおよそ、4800人に上ります。

私も、私の父が亡くなるまでの十年ほどの間に介護を経験しましたが、医療や看護、介護など、本当に多くのサービスにお世話になり、どんなに助けられたかわかりません。加えて、各専門職の方々以外にも民生委員や近所の方、優しい友人などにも声をかけていただき支えられ、父が望んだ「住みなれたわが家で、親



「人生100年時代」を身をもって示してくださっている諏訪市男性最長寿の有賀清晴さん(106)、さわ江さん(102)夫妻。敬老祝賀訪問の様子=2021年9月15日、諏訪市豊田

「人生100年時代」を支える地域づくりとは

これからさらに20年間の見通しでは、人口減少と少子高齢化の進行により、財源と医療・介護を担う人材不足に次なる課題があることに加え、当初からの「医療と介護の連携強化」という目的の遅れを指摘する専門家もおります。しかし、幸いにして諏訪市では早くから多職種によるワークシヨップ等の交流活動を重ね、4年前には「地域医療・介護連携推進センター(ライフドアすわ)」を立ち上げ、全体の潤滑油として成果を挙げてきて頂いています。

私も、私の父が亡くなるまでの十年ほどの間に介護を経験しましたが、医療や看護、介護など、本当に多くのサービスにお世話になり、どんなに助けられたかわかりません。加えて、各専門職の方々以外にも民生委員や近所の方、優しい友人などにも声をかけていただき支えられ、父が望んだ「住みなれたわが家で、親

これまでの医師会をはじめ関係の皆さんのご尽力に感謝を申し上げますとともに、このことを私は多くの市民や利用者の方々に知っていただきたいと思っています。そして今後は、専門職種の方々のみならず、近隣の相互の助け合いを底固めとした、地域全体で関わる「地域包括ケアシステム」を更に充実し、だれもが住み慣れた地域で最後まで暮らせる人生を実現するための地域づくりをけん引していって頂きたいと期待しています。

(毎月第2日曜日掲載)